

事業名	国際航空路線開設・定着化促進事業	事業期間	昭和 6 0 年度～平成 年度	上位の施策名	広域交通網の整備推進
				担当課・局・室名	交通政策課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民	現状・課題	アジアからの観光客の増大や貿易の拡大などに対応するため国際線の維持・拡充が必要である。
	意図	国際航空路線の維持、拡充を図る		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	2 0 年度	2 1 年度	2 2 年度	2 3 (予算)
要望活動等	航空会社へのダイヤ改正や旅行会社への大分県商品造成の依頼等	直接実施	県	総コスト	55,487	55,084	53,552	50,500
広告費補助金	テレビや新聞で旅行商品を広告した場合に補助	負担金	大分空港 利用促進 期成会	事業費	40,487	40,084	38,552	35,500
広報宣伝活動	大分県（大分空港）をPRするための宣伝費用			うち一般財源	40,487	40,084	38,552	35,500
団体交流補助金	県民がソウル線を利用して韓国等に行つて交流した場合に補助			人件費	15,000	15,000	15,000	15,000
利用促進奨励金	ソウル線を利用した送客に対し、人数に応じて奨励金を交付			職員数（人）	1.50	1.50	1.50	1.50
着陸料補助金	4月～10月の大分空港への着陸料を補助							
空港ビル使用料減免補助	航空会社の使用料を免除する空港ビル会社への補助							

[事業の成果等]

事業の成果	日韓の旅行会社への支援や大韓航空への運航支援などを実施し、対前年度比約21%増の利用客があり、目標値を概ね達成した。 しかし、東日本大震災や原発事故の影響もあって、ソウル線の搭乗率は67.2%と搭乗率目標の70%を下回り、またチャーター便の運航も減少した。	活動指標	指標名（単位）		事業の実績		最終目標			
					2 1 年度	2 2 年度	目標値	目標年度		
			広告補助金（回数）		12	14				
			広報宣伝活動（広告等掲載/回数）		7	7				
			団体交流補助金（団体数）		31	30				
成果指標	国際線利用者数（人） （韓国・中国（台湾））	達成度	2 0 年度	2 1 年度	2 2 年度	2 3 年度	最終達成 （年度）	評価	備考	
		目標値	40,201	30,327	29,407	16,000				
		実績値	25,713	24,744	29,283					
		達成率	64.0%	81.6%	99.6%					
									概ね達成	平成23年度の目標値は、東日本大震災のため、既に44便の運休が決定していること、韓国人の旅行マインドの回復に時間を要すること等を総合的に勘案し設定している。

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	国外航空路線の誘致や維持に関する事業であり、大分空港の国際線の安定運航、国際チャーター便の誘致は観光振興上も重要なことから、県が主体となり、関係市町村や民間団体と協力しながら施策を実施する必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	2 2 年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し（業務の民間委託など）を図っているか	図っている（拡大困難）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 1 年度に大分空港関係2団体を統合</li> <li>2 1 年度に国際チャーター便誘致促進事業と統合</li> </ul>	2 0 年度	2 2 年度	総コスト / 成果指標の業績値
			2,158 千円/航路	1,829 千円/航路	

[総合評価]

方向性	見直し（2 3 年度）事業内容の変更	方向性の判断理由	東日本大震災や原発事故の影響による運休や旅行控えなどにより年間利用者数の大幅な減少が見込まれるため。
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>運航再開時に県民の利用促進を積極的に図るために、団体交流補助金の要件を緩和したグループ補助などの制度を取り入れることとした。</li> <li>震災や原発事故の影響で利用者が激減した韓国人観光客を取り戻すために、韓国の旅行会社に対する誘客奨励金を増額することにした。</li> <li>2 4 年度は、利用促進を図りつつ、事業効率の向上を検討</li> </ul>		

事業名	大分空港活性化事業	事業期間	平成 18 年度～平成 23 年度	上位の施策名	広域交通網の整備推進
				担当課・局・室名	交通政策課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民・大分空港利用者	現状・課題	大分空港のアクセス環境を改善し、利用促進を図る必要がある。
	意図	大分空港の利便性向上を図る		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				20年度	21年度	22年度	23(予算)	
県北快速リムジンバス運行	大分空港と県北地域(中津・宇佐・豊後高田)を結ぶリムジンバスの運行(1日4往復→1日6往復 平成22年10月31日から)	負担金	大分空港 利用促進 期成会	総コスト	8,500	8,500	35,014	38,231
				事業費	5,500	5,500	29,014	33,231
湯布院高速リムジンバス運行	大分空港と湯布院を結ぶリムジンバスの実験増便(1日6往復→1日9往復 平成22年10月31日から)	全部委託	県	うち一般財源	5,500	5,500	16,727	19,307
県南高速リムジンバス運行	大分空港と県南地域(佐伯・臼杵)を結ぶリムジンバスの運行(1日6往復)			人件費	3,000	3,000	6,000	5,000
				職員数(人)	0.30	0.30	0.60	0.50

[事業の成果等]

事業の成果	指標名(単位)	達成度	事業の実績				最終目標			
			21年度	22年度	目標値	目標年度				
大分空港と県内各地を結ぶ公共交通を提供することにより、公共交通による空港アクセスの空白地帯の解消及び大分空港利用者の利便性向上を実現するとともに、企業誘致や観光の促進にかかる環境整備に寄与することができた。	活動指標	活動指標	県北快速リムジンバス運行回数(便)	2,920	3,532	3,772	23			
	湯布院高速リムジンバス運行回数(便)		4,371	5,105	5,658	23				
	県南高速リムジンバス運行回数(便)		2,178	4,373	4,392	23				
成果指標	指標名(単位)	達成度	20年度	21年度	22年度	23年度	最終達成(23年度)	評価	備考	
			目標値	13,698	13,798	86,541	103,991			103,991
			実績値	11,894	11,038	70,992				
			達成率	86.8%	80.0%	82.0%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	市町村をまたがり実施する事業であり、大分空港へのアクセス改善は大分空港路線の維持拡充のみならず、企業誘致や観光振興の面からも重要なことから、県が主体となり、関係市町村と協力しながら施策を実施する必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	22年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			20年度	22年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・航空ダイヤの改定にあわせ、アクセスバスを利用しやすい運行ダイヤへ見直し	0.715	0.493	総コスト / 成果指標の実績値
			千円/航路	千円/航路	

[総合評価]

方向性	見直し(23年度)事業内容の変更	方向性の判断理由	大分空港のアクセス改善の為に、さらに効果的かつ効率的な取組を検討する必要があるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者がより利用しやすくなるよう、運行ルート、バス停の場所や数、運賃、ダイヤ、PR方法等を検証し、効率性、利便性の向上を推進</li> <li>・実験的に増便したバスシステムについては利用実績を踏まえ、実験増便の継続又は終了を検討</li> <li>・24年度は、利用促進を図りつつ、事業効率の向上を検討</li> </ul>		

事業名	(公) 国直轄道路事業負担金	事業期間	平成	年度～平成	年度	上位の施策名	広域交通網の整備推進
						担当課・局・室名	道路課

[目的、現状・課題]

目的	対象	国所管の一般国道	現状・課題	広域的な道路網の整備により物流効率化、広域的地域間交流、地域の産業発展、地域開発の促進、生活環境の改善等が図られるよう、国土交通省が行う国直轄管理一般国道の改築事業費の一部を負担する。
	意図	早期完成を図る		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				20年度	21年度	22年度	23(予算)	
中九州横断道路	大分市を起点として、竹田市を通り、熊本市を結ぶ延長約120kmの地域高規格道路整備事業 ◎大飼千歳道路(L=4.3km) (H19.3.18供用) ◎千歳大野道路(L=8.7km) (H20.3.22供用) ◎大野竹田道路(L=12.3km) (事業実施中)	負担金	国土交通省	総コスト	6,248,240	6,079,960	3,256,863	3,346,581
				事業費	6,248,240	6,079,960	3,256,863	3,346,581
				うち一般財源	240	1,960	27,863	114,581
				人件費				
				職員数(人)				
その他の国所管国道	国が所管する国道10号、57号、210号等の道路改良事業							

[事業の成果等]

事業の成果	「大野～竹田間」において、平成20年2月23日に事業着工式を行い、用地買収及び本線工事を推進した。
-------	---

中九州横断道路		(うち大分県側)	
計画路線延長	120 k m	(60 k m)	
区間指定延長	66 k m	(40 k m)	
うち調査区間延長	36 k m	(15 k m)	
うち整備区間延長	30 k m	(25 k m)	
整備区間(大分県側)		整備区間指定年月日	
大飼～千歳 (4.3km)	平成 7年 4月28日	(平成19年3月18日 開通)	
千歳～大野 (8.7km)	平成 7年 8月23日	(平成20年3月22日 開通)	
大野～竹田 (12.3km)	平成11年12月17日		

事業名	(公) 道路改良事業	事業期間	平成	年度～平成	年度	上位の施策名	広域交通網の整備推進
						担当課・局・室名	道路課

[目的、現状・課題]

目的	対象	一般国道、主要地方道、一般県道	現状・課題	広域連携を推進し県外からの観光客の誘致や産業競争力の向上を図るために、「おおいたの道構想21 (大分県中長期道路整備計画)」を基本計画として、高規格幹線道路と一体となって幹線ネットワークを形成する地域高規格道路や一般国道などの道路整備を進める。
	意図	整備を促進する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	20年度	21年度	22年度	23(予算)
(公) 道路改良事業	一般国道212号 中津三光道路 本耶馬溪～耶馬溪道路 耶馬溪道路	直接実施	県	総コスト	20,182,461	20,010,213	18,527,355	27,560,420
(公) 地域活力基盤道路改良事業	一般国道197号 古宮～小志生木バイパス			事業費	20,182,461	20,010,213	18,527,355	27,560,420
	一般国道217号 佐伯弥生バイパス			うち一般財源	211,963	198,202	240,278	309,576
	一般国道388号 小蒲江バイパス 小蒲江森崎浦バイパス			人件費				
	一般国道442号 野津原バイパス			職員数(人)				
	主要地方道 飯田高原中村線 豊後渡工区 一般県道川上玖珠線 段原工区 他							

[事業の成果等]

事業の成果	「おおいたの道構想21」の具体的整備プログラムである「大分県版ちやく2プロジェクト(豊ちやく)」の達成に努めた結果、国道217号 佐伯弥生バイパスが部分供用開始するなど、県内の道路整備は着実に進んでおり、今後も引き続き、「選択と集中による事業効果の早期発現」を目標に、道路整備を推進していく。成果については、下記の表のとおり。
-------	---

中津日田道路

項目	区間	中津市 (中津港～旧三光村) L = 9 k m	中津市 (旧三光村～旧本耶馬溪町) L = 13 k m	中津市 (旧本耶馬溪町～旧耶馬溪町) L = 5 k m	中津市 (旧耶馬溪町) L = 5 k m	中津市 (旧耶馬溪町～旧山国町) L = 9 k m	中津市(旧山国町)～日田市 L = 10 k m
計画路線		H10. 6. 16	H6. 12. 16	H6. 12. 16	H6. 12. 16	H6. 12. 16	H6. 12. 16
調査区間		H10. 12. 18 L = 2 k m					H9. 9. 10 L = 10 k m
整備区間		H11. 12. 17 (中津高田線～ 国道213号) H21. 3. 20供用 L = 2 k m	H10. 12. 18 (国道213号～ 国道10号) H21. 3. 20供用 L = 2 k m	H18. 3. 31 (国道10号～ 中津三光IC) L = 3 k m	H19. 3. 30 (中津三光IC～ 本耶馬溪IC) L = 13 k m	H7. 8. 23 (本耶馬溪IC～ 耶馬溪IC) L = 5 k m	H21. 3. 13 (耶馬溪IC～ 耶馬溪町大島) L = 5 k m

その他道路事業

代表路線名	事業実施の概要
一般国道197号	一次改築として、平成7年度から大分市(旧佐賀関町)古宮～小志生木バイパスを施工中である。
一般国道217号	一次改築として、平成2年度から大分市(旧佐賀関町)白木拡幅を施工中である。また二次改築として、平成9年度から佐伯市駅前～(旧弥生町)小田間の佐伯弥生バイパスを施工中である。

事業名	港湾整備事業	事業期間	平成	年度～平成	年度	上位の施策名	広域交通網の整備推進
						担当課・局・室名	港湾課

[目的、現状・課題]

目的	対象	港湾施設	現状・課題	港湾貨物量の増大や旅客の増加、船舶の大型化等に施設が対応できていない。
	意図	物流や観光交流など産業活動の活性化を図る		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	20年度	21年度	22年度	23(予算)	
(公)重要港湾改修事業	中津港ほか2港	道路、防波堤、岸壁	直接実施	県	総コスト	2,850,471	2,307,363	2,152,249	2,239,712
(公)地方港湾改修事業	高田港	防波堤			事業費	2,850,471	2,307,363	2,152,249	2,239,712
(公)港湾改修統合事業	大分港ほか8港	岸壁、防波堤、導流堤、物揚場、道路等			うち一般財源	86,091	82,410	88,097	104,637
(公)港湾整備交付金事業	臼杵港ほか1港	防波堤、防砂堤、緑地(護岸)、岸壁等			人件費				
(単)港湾改良事業	大分港ほか7港	護岸、可動橋、道路等			職員数(人)				
港湾機能施設整備事業 (特別会計)	佐伯港ほか3港	埠頭用地造成等							

[事業の成果等]

事業の成果	防波堤、岸壁、泊地などの施設整備を行う事により、物流、観光交流、地域の産業活動が活性化された。 成果については、下記の実績表のとおりである。
-------	---

[成果指標・実績]

(単位：千円)

事業名	22年度決算額	内 容
(公)重要港湾改修事業	514,643	道路、防波堤、岸壁
(公)地方港湾改修事業	18,567	防波堤
(公)港湾改修統合事業	421,365	道路、防波堤、導流堤、泊地等
(公)港湾整備交付金事業	393,320	防波堤、防砂堤等
(単)港湾改良事業	177,254	護岸、可動橋(橋体補修)、道路(舗装改良)等
港湾機能施設整備事業(特別会計)	627,100	埠頭用地造成、舗装、護岸等

事業名	(公)国直轄高速道路事業負担金	事業期間	平成	年度～平成	年度	上位の施策名	広域交通網の整備推進
						担当課・局・室名	高速道対策局

[目的、現状・課題]

目的	対象	東九州自動車道新直轄事業区間(佐伯～県境間)	現状・課題	東九州自動車道は、九州を循環する高速道路ネットワークを形成する重要な路線であるが、その供用率は未だ45%となっている。このため、「佐伯～宮崎県境間」をはじめとした未整備区間の早期供用に向け、引き続き、事業主体である国土交通省など関係機関へ重点的な投資を働きかけていく必要がある。
	意図	早期完成を図る		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				20年度	21年度	22年度	23(予算)	
佐伯～蒲江間の整備 蒲江～県境間の整備	用地買収、埋蔵文化財調査、橋梁・トンネル・改良等工事 用地買収、橋梁・トンネル・改良等工事	負担金	国土交通省	総コスト	1,295,463	1,758,784	2,261,320	2,400,000
				事業費	1,295,463	1,758,784	2,261,320	2,400,000
				うち一般財源	463	28,784	168,320	52,000
				人件費				
				職員数(人)				

[事業の成果等]

事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成19年2月18日「佐伯～県境間」着工式</li> <li>○早期供用に向けた用地取得の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・用地進捗率：「佐伯～蒲江間」89% 「蒲江～県境間」99% 「佐伯～県境間」計91%</li> </ul> </li> <li>○早期供用に向けた工事の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大越トンネル・三軒屋トンネルの貫通、青山橋上部工・丸市尾トンネルの着工等</li> </ul> </li> </ul>
-------	--

○県内における東九州自動車道の整備状況

(延長：概算)

区 間	延長(km)	整備状況等	備 考
福岡県境～宇佐市	13	H11.12.24 整備計画区間 H18. 2. 7 有料道路方式決定	西日本高速道路㈱ 施行中
宇佐市～速見IC	27	H 6.12.15 宇佐別府道路(一般有料道路)として供用	
速見IC～大分米良IC	(33)	(九州横断自動車道と重用：最終供用H8.11.26)	
大分米良IC～大分宮河内IC	6	H11.11.27 開通	
大分宮河内IC～津久見IC	21	H13.12.27 開通	
津久見IC～佐伯IC	13	H20. 6.28 開通	
佐伯市～佐伯市蒲江	20	H 8.12.27 整備計画区間 H10.12.25 施行命令 H18. 2. 7 新直轄方式決定	国土交通省 施行中
佐伯市蒲江～宮崎県境	9	H11.12.24 整備計画区間 H15.12.25 新直轄方式決定	
計	109	(重用区間を除く)	県内供用率 61%